



娘

部

中

白紙

~13

3938

4



門 八 13
號 3938
卷 4

返り用二篇

的の酒を題元字... 編ら存此
名を氣海... 意を空
平催但初編... 新題
向... 觀... 俗...
帯... 小... 俗...
持... 杖... 踐... 札...

古今... 稿本... 朱... 加... 補... 會... 小...
あ... 書... 稿...
と... 小... 俗... 杖... 踐... 札...

江 三丈人唐題





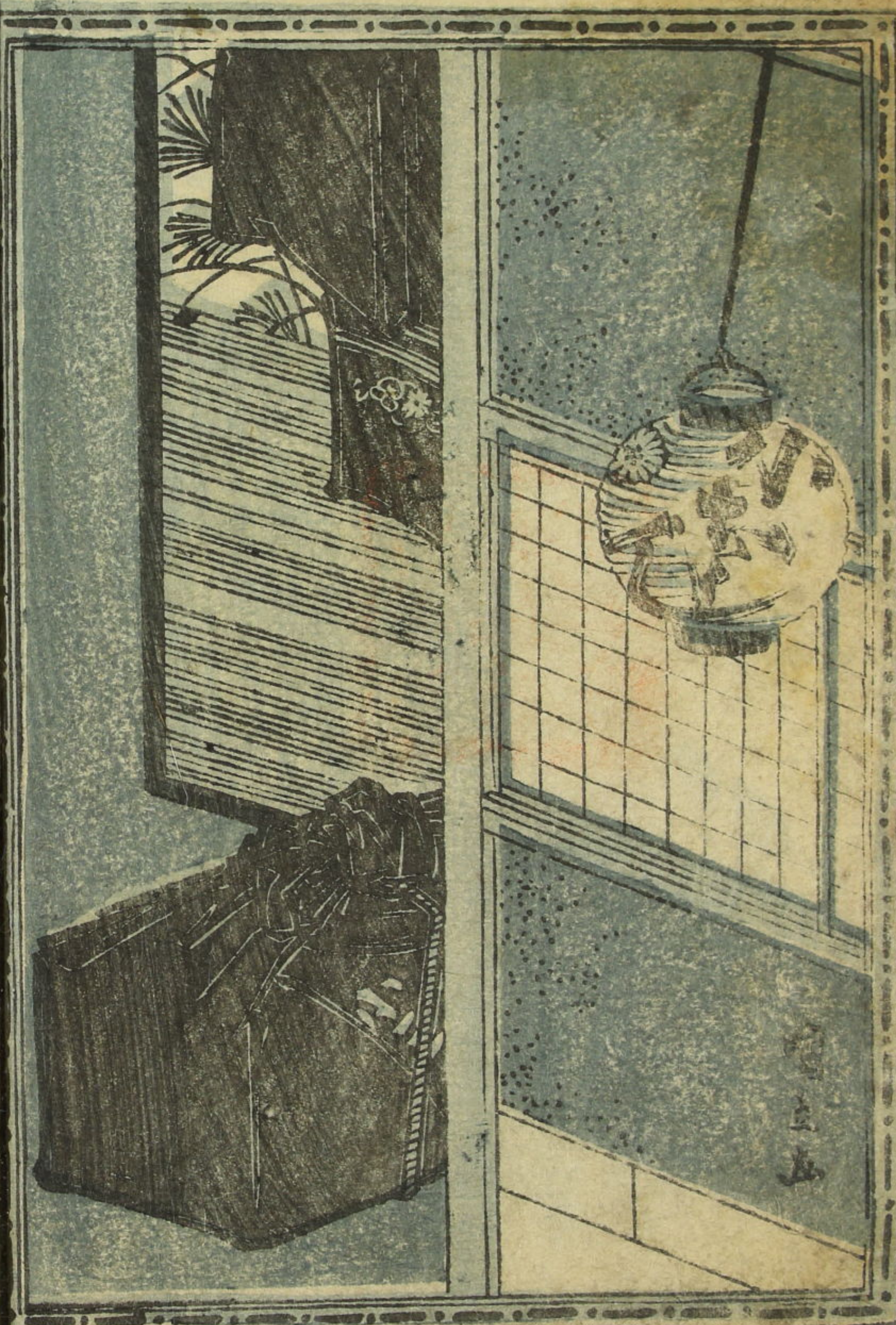
浪人傳 一編

養大明神

去書

五
上

〇
四



假名文章娘節用後編上之巻

江戸 曲山人補綴

第四回

らふ又千歳屋の真名在と妹の小三小名のりあひて
 ようかふるりるるちんちんの村分ドぶんより。よつ
 びつひてらうせあさひとが。かひてりいんせうの海うみがふりくるいんせうどきり。物らと
 ろくいんせう休いんせうふいんせうよく世いんせう孫いんせうとるいんせうりいんせうぐいんせうそいんせうといんせうのいんせう



家来月

長名宿とかの強斥不交出さま向ト夕の邊ふまくと
世を送る身とるりふろるさまバ月日の過と速ふて
あく二月のころふい小さんへちやあつ月子る里ーうん
ぎききで 産後へ出まば我もふける又ハ世理る酒も吞むる
身のとあふわーうるべーと令五ツハ頼儀屋のあじ
ふかけ会些の子付の令をつつハしてちろきうふハ
文出まを不ど不我のせしきへ出さぬやうふとこ
のふあるー重々清もさまぐと釋る男ゆえ
早速ふ承知して。いと孫のふりとりけを。わけて令出
弟ハ小さんを身交のハのハんと。さあぐお忍按
しつりーぐ。のこより大令のひるまは表又文
ト弟人うちあてのふぶきやうもるうりーゆえ。いつふ
せんとたわ本ふ。いとり物のとらるーあーが。やうくふ
忍按をめぐりして。末師の又文の悪くえひそろふふひ
送りくるハ。その夜三条の小船治宗近の孫作ふて大ハ
のちうひのあり。妹不焼又世ふまぐま。つとりのあて

家来日記

二

小さんハもねこの月が縁月ふるりーくを額儀志の
至云末支物も係着るむうう款をえるまで小こ
とひいけう解ふ金共の親めともゆさうるるこ
あるゆゑ小手附の金をえーのこふて解の金へけ
えねときさふあわぶむともさく産の手當を何金と
のころうさくもあさうて安産とこそいのりる金共
いぬくまで額重支物の縁切のひとくさあうねハ
はらもえねく身傳の金をさうさうお人どそまも

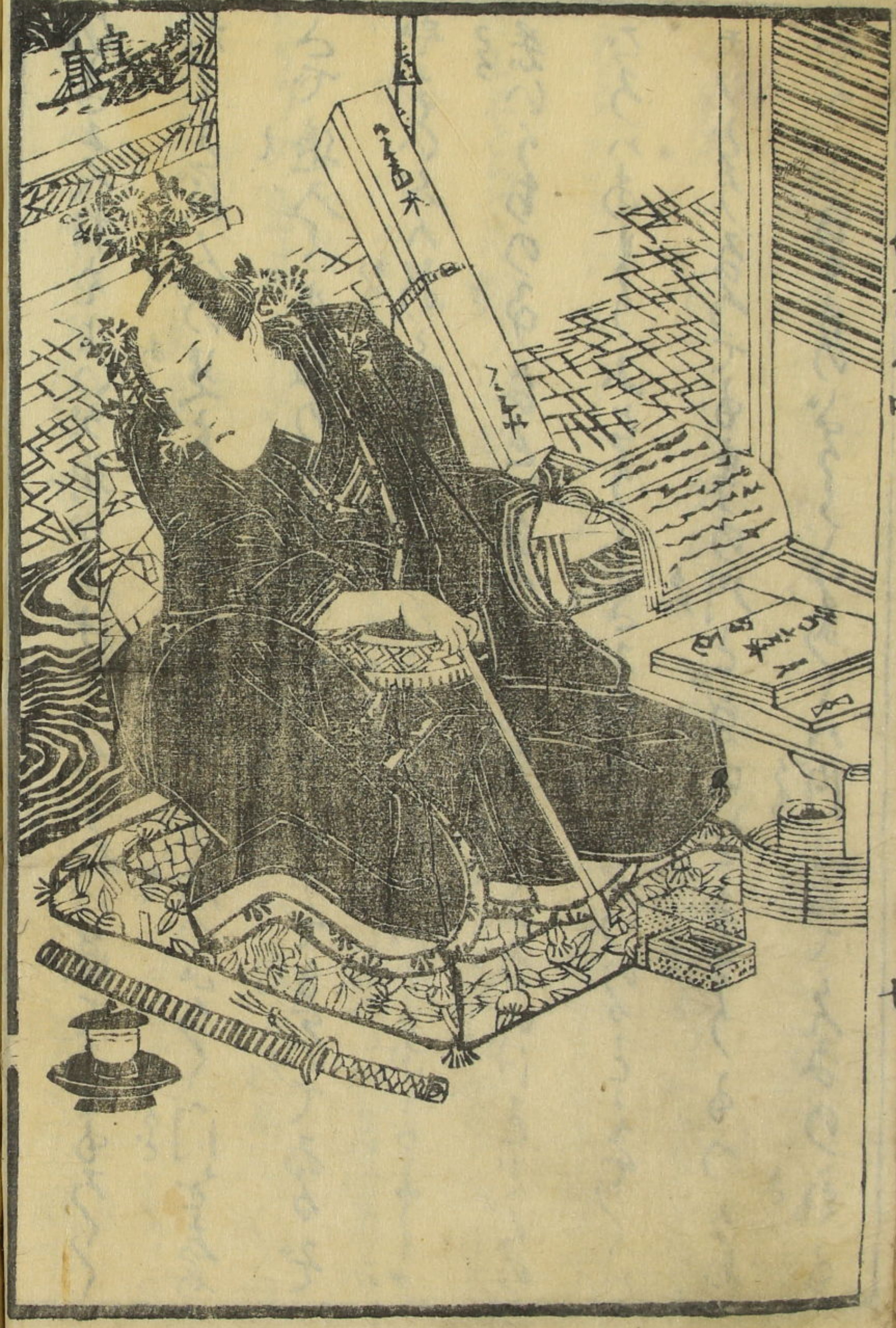
自出るうびひとり拘をぞるーあけるもわ月こちて
小さんハ玉のゆうるる男ふと産ーく金共をもさう
あり。額重支物もさうさうと大さういその名を
金の介と名付し。あねふ似てうりうりなま金共
ハ日さうふまて小こ金之助の毫ふいうさうとめく
そのくれもあつらふ内ふふこハ縁切を額重入のこ
けあり。白翁ハ熱服の文之患が不身持ふてハのこ
るしね苦勞とさうまバ秘産孫の金共。いづらりのこ

柏翁はくおうが飛と手て金かね五ご十じゅう。サさクくめめつつととろろちち入い来きくく茶ちやが
出で来きららうう一いつツつ香かととかかきき。茶ちや菓か子しののささりりのの湯ゆ。茶ちやららうう
頂ちやう戴たいししののととろろつつててああるる。
ののつつのの白はく。コレこれ金かね五ご十じゅう。かかねね一いつもも今いまがが血ち氣きののままりり。老らう人にんの
りりふふととののかかりりららふふああるるままいいがが。ママアアよよふふままりり中ちゆう也や。かかつつままのの
でで子しととかかりりふふハハ親しんのの老らうでで貴きいい様やうひひのの差さああららいいのの。
ささままいいととろろつつててららううのの比ひででううああつつららうう。とと方かたららうう林りんががままりり附つ
ああちちららううハハ一いつ統とう風ふうががをを中ちゆうとと。ささううららいいふふててよよままりりととももああつつををり

かかねね一いつとと業あひししるる也や。花はなををつつけけててくくままととめめららししててああららうう。
めめととよよううかかねね一いつゆゆひひととううのの親しん。又また兄あに才さいととももおおふふをを
ままりり。めめちちららんん文ぶんとと態たいををどどああかかねね一いつままででももおおくく一
てていいああるる事こと也や。かかねねととかかりりのの小せう容よう良りやうよよきき様やうとと親しんととはは
ふふめめららううててそそののおおげげ。ふふひひふふ足あし才さいののややううふふててああららううぬぬ
中ちゆうででああつつととわわらら。そそののおお態たいでで由ゆ例れいふふああららうう。又またままののさされれ
ああゆゆるるららううけけきき也や。そそののととももおおららががささままだだ。生せい死しのの
ああららううぬぬとと。ササ。ちちららううととああららわわききいいととぞぞやや。何なにとといいふふ

ておとちらのお書にまじり向のふどもう入内よめても
 かのろくあるまんだ。今でハ文を患もかぬとぞとちん
 のらひらけてうらハお飛もぬぬ入のくふおすふハ
 コレそらをおうぢわうう。まのい身さまうせぬやうふ。せふ
 やあぬが若いうちハ利害まのりでも坐づいぢふあわ
 まりの出あるもの。あつともたわあそびまどハあぐの
 えてうらて
 け子勝手よあ果さるるまも何ともおのみまのい。まじり
 内でいさういまい。アとの事いよ出ておとさうう。風でも

ひまそ入ねをよいが。おがふけてつくとねば森ておておろく
 ねとまじり人の足まのまるいびくふ。ぬつとく。門をま
 じで遠入くまぬのくと。引て身としてまゐてあるぞ
 や。おいがんおふハ附あひるまど。あそびふもゆぐやハサ
 若いうちのゆるまど。あんでおまゐるまでいまいけとどら
 びろハあまうふとらう。じとぞや。そせがつのこととまてくハ
 モウどうも入てもまの川と。おのをよまう。ゆつらぬ
 やうふ。あるものぞとく。まじりハ。内よめておとさるものねも



柳巷年四

十

おしやう

十

やまうてもおあへうぐおまきひと。うそごととおあひあて
 をしませう。 「何さあとでいふどおでもいひゆうごの
 うういひま。葉トざとさういらまよ。 「ハイさあうら
 おとわくが。飯のあそぢーまート
 「おぢやうさんまふをあそぢーまき。 「いさう入とれい
 はあのどおあひいさんふ。いざらこ人形の悪あごよ
 うか。 「のういおげんわさあいぢうもあそぢーまー。
 うつまでもそのゆうふおあそぢやう。 せういづう。

どよーおでいひまを。今お兼旦那さまの奥さまふ
 ありあそむんお年でううふ。 「コヤうをいりわることを
 かいひごま。あといおあひいさんごものを。そんなていひるり
 ません。さうーとてゆうとこふ。奥さまが。お出ごよ。 「そ
 ぞうあの中うふ。お内ふとてい片時も。お出あそぢ屋の
 め。そととりふもかまさんなが。もうあうとととまらー
 あそむをよいふ。おんのねさまで。兼旦那の女ごうひを
 あそむを。あそむ敷で。お出あそむを。さういひゆ。



姉妹和四

夫もろくろくつらりませんといりきておあきと筆の
 ぐそろふ款とあうめて程あふん
 おあふいさんいおぢいさんやまさんふ。まる中ふからろ
 づひとあそびまろく。かりまのさうごめのを。ちつとち
 信保表のおあそびと。あそびててもよいでいぬい久うをそれ
 へ又志望まごさる。あろくいおあいまのか娘こさる。若旦那わがぢさるい
 お血ちまちでも。信表子じやうでさうすいめい。お公づらひも
 あそびの樂たのしみとト。おあおのひの畏おそ焼やきあり。おあきいふく
 ちつとち

可やくそんならとらふと去ろくまるよ。とどこの伯父おぢいさんの
 まらこのお表やぶの室むろごう。おとうさんよりお是あまさんご。
 大切たいせつごとつねぐく。おつらさんがあつたつてよ。子こども
 心こころの中なか金かね五ごと。大おほいきみなるぞいぢく。さうても
 金かね五ご希まれハ。件くだんの令うけとらえて。飛とぶがとくふ額かぶたか儀ぎへ
 知りて。あろくまき束たばよ壺かく。ふさんの男おとこの代しろとまら
 して是こゝまをひとわらう。世よ件くだんふらう。を厚あつく頼たのひ
 更さらよりくちふまき柳やなぎ櫓やぐらの。色いろるる桑くわ門かどといふ料りやう理り屋やの

裏うらふいおまをりとり。遠とほくままでも考かん慮りひしてらのあひ
 小こさんの金かねとゆをひきとう。乳う母たとり人に婦に女ををかきて
 後あげせけるふ。小こさんの由ゆをあらわく。養やし後ごをしらく。乳う母たのうら
 小こさんのつくぐの形かたちをあらわく。考かんへんをあらわく。金かね共どもも。考かんふの
 身みみて。考かんふの身みをあらわく。令しくし。今いまをあらわく。乳う母た下げ女にまどく。
 たがまんとと大おほいさるべし。不よ冷せん。考かんふの身みをあらわく。考かんふの
 一旦いつ廓くわくのあらわく。考かんふの身みをあらわく。考かんふの身みをあらわく。考かんふの
 今いまさらうの形かたちをあらわく。考かんふの身みをあらわく。考かんふの身みをあらわく。考かんふの

女めのこらいふまらうぐらうの由ゆをあらわく。考かんふの身みをあらわく。考かんふの身みをあらわく。考かんふの
 げらやとみとづるれらうの由ゆをあらわく。考かんふの身みをあらわく。考かんふの身みをあらわく。考かんふの
 考かんふの身みをあらわく。考かんふの身みをあらわく。考かんふの身みをあらわく。考かんふの
 考かんふの身みをあらわく。考かんふの身みをあらわく。考かんふの身みをあらわく。考かんふの
 考かんふの身みをあらわく。考かんふの身みをあらわく。考かんふの身みをあらわく。考かんふの
 考かんふの身みをあらわく。考かんふの身みをあらわく。考かんふの身みをあらわく。考かんふの
 考かんふの身みをあらわく。考かんふの身みをあらわく。考かんふの身みをあらわく。考かんふの
 考かんふの身みをあらわく。考かんふの身みをあらわく。考かんふの身みをあらわく。考かんふの
 考かんふの身みをあらわく。考かんふの身みをあらわく。考かんふの身みをあらわく。考かんふの
 考かんふの身みをあらわく。考かんふの身みをあらわく。考かんふの身みをあらわく。考かんふの

むさうく。せうくくよく瀬うーつけまーのめと合のひまを
 まうひるねをさると。兼よるふまつて目めをさまひうく。やうはし
 らうてねくさね入小三「おまへさんさんでいあるまへー」合「たせく
小三るせゆよくでさまへー。あまひつてゆひるまでづかよう
 てハか起おきるまうて音よみつたうとさるるのせ「あんの。
 ちうみかうてゆ。めうねあまき。時ト分ぶんどうう。アし横き
 げんのひるみとえみ。かまが款うねをえちやアみくこまふ
 ぜのひるくいの坊がうちやんごぞトまん金の分の款ねをさるでく。らぬ。おつろアの

やうふ。うへうたふまうちやアつねぞ「アヤけーうくね入。
 こころううあまこふ知みく。親おとみ世せ作せありや色いろをせうト
 いひるがうまごころお竹たけや何なにをしつゝあう。坊がうう起おきころう
 のうこをむあう。お下した女にグクサウくおびうさんか出いて
 ちうとびいてあうとよ。みさへまー。アう乳うた母はどん。まごーやア今いまかびうさんを。
 つと中なかつて東あづま逐しゆ院いんへびつてあををせうをう。アノ齒は入いやが
 来きく。まぐーの下げ路との齒はを入いさせて。からんみさいよ
 アイく。そまひのう。かほみるまうううまわくかゆゆよ。

